

「くらしが大変な時 順序がちがいます」

—ハコモノ優先・先行で農業は育たない—

ふるさと交流村の「構想」を「計画」に移し進めようとしています。町民の中に不安はつります。私たちが提案している「やるなら全町民対象に意識調査を行なうべき」にさまざまな声が寄せられています。先のアンケートの声を合わせて紹介します。

商売人として考えると道の駅ができる売り上げも増えていいかなとも思う。しかし、冷静に一町民として考えると、甲良町で特産品もない、それだけではなく、売るものがない段階で道の駅をつくるのに何億というお金をつき込めば夕張のようになるだけ。赤字を背負うのは町民だけ。よその者が笑っている。「甲良町は赤字を覚悟でやるつもりか」と。行政が全町民からアンケートをとる案は大事なことです。みんなで決めるればええのや。(Aさん)

まず、何を売るのが。甲良町を代表する人気商品があるわけではない。道の駅ができたらいと願望を持っている町民もいる。しかし、その「願望」が億の力ネをかけて経営として成り立つはずがない。現時点ではやめたほうがいい。(Bさん)

やるならやったらええ。そやけど農業者には始まりの段階から何の相談もない。ほとんどできあがったころになって「協力してくれ」では行政の考えばかりや。協力できるはずがない。心は離れてしまっている。(Cさん)

はじめから豪華なものを考えすぎや。北落の直売所をもう少し手をかけてきれいにして、駐車場を少しだけでも広くしたらいい。やらせるだけやらしといたらいと思う。(Dさん)

全く順序がちがう。町民の側、生産者の側が一先懸命売れるものを作って、消

費者も注目して、生産者や甲良町が活気付いて「内なる力」が満ち満ちてきて、満を持して「それなら拠点を作る」と合意に進んでくるのなら理解できる。しかし、今の「交流村」の計画はどう見ても町民の側から沸き起こってきたものではないですね。(Eさん)

もっと農業実績を充分つんで、勉強をしてください。「道の駅を推進すべき」とする60才代女性)

みなさんの「意見」など待っております

ある事情で、県内、県外の数え切れない「道の駅」を利用しているというMさん(旧湖東町在住60歳代・元建築業)に聞きました。

やっぱり地元特産品 Mさんの話

しょっちゅう各地の「道の駅」を利用するが、やはり地元の特産品を目当てに客は集まってくる。ところが、どこでも売っている商品や中国製が並んだところは、ゲッソリして二度と行こうとは思わん。その土地ゆかりの産物にこだわったところは店に何か知らん熱気が漂っている。行政は、農業者のやる気を育てる施策が何より大事。マーガレットの場合、その上に生産者が「ぜひ良いものを」という熱意も形にあらわれ、町民全体もゴミ分別処理などのルールを実行し、お互いが節度をもって取り組んでいる。愛東は農産物づくり支援の年輪がダントツにちがう。その愛東でも、農業後継者の不安は深刻で、よほど作ることが楽しく、農業の所得が確保されないと難しい。ハコモノをつくれれば何とかいけると思うのが一番危険や。

6月議会に向けて
要望をお聞かせ下さい。

一般質問として町行政の計画や姿勢などをたずることができます。みなさんのご意見やご要望をお待ちしています。

日本共産党演説会

お年寄りいじめもはなはだしい「後期高齢者医療制度」 またもや増税を押し付ける「暫定税率」復活 ドンドン上がる諸物価、下がるのは福田内閣の支持率だけ 日本共産党はどんな道筋でこの日本と地域を改革しようとしているのか? ○はじめ

5月28日(水)午後7時開会
ひこね燦ぱれす・大ホール

(JR南彦根駅から西へ徒歩5分)

弁士 衆院比例 近畿ブロック

宮本たけし 元参議員

川内たかし 党県書記長

甲良民報

2008年5月11日 382号【改定版】
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在土463
Tel. Fax 38-4949

